

3

福島県会津若松市

福島県立会津学鳳中学校・高等学校

- 学科等／中高一貫・総合学科
- クラス数／中学校9クラス、高等学校18クラス
- 生徒数／中学校270人、高等学校711人
- 建築主／福島県
- 所在地／福島県会津若松市一箕町大字八幡字八幡1-1
- 工事種別／新築
- 敷地面積／86,835㎡
- 延床面積／21,954㎡
- 竣工／2007年8月

大小の教室と自習スペースの 効果的な配置で生徒の主体性を引き出す

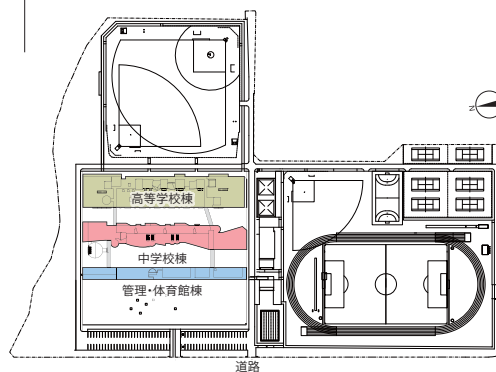
履修人数と授業内容に合わせた教室の構成展開と、生徒の活動の場を一体的に整備した。



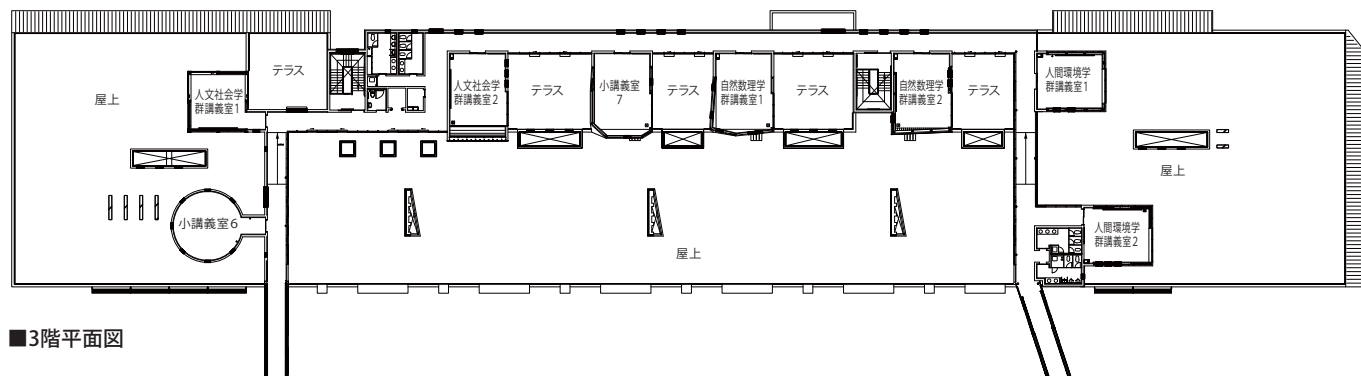
中学棟と高等学校棟を結ぶブリッジから見た中庭

計画に見られる 指針改訂のポイント

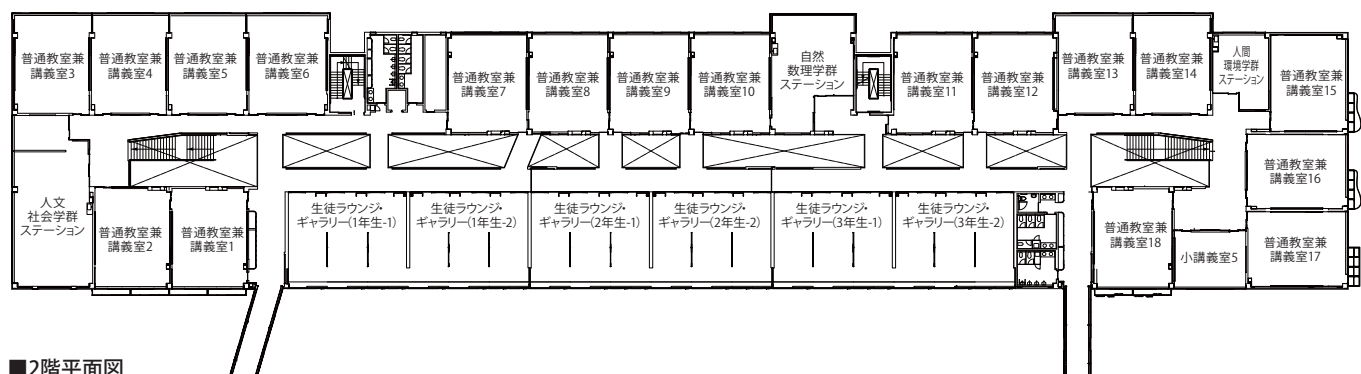
1. 主体性を養う空間の充実
2. 学習・生活空間の質の維持・向上
3. 効果的・効率的な施設整備



■配置図



■3階平面図



■2階平面図

1. 主体性を養う空間の充実

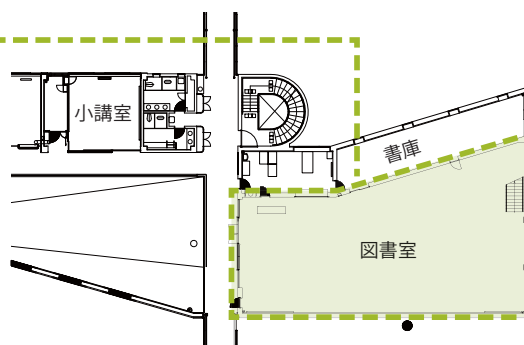
「生徒の目標達成や自己向上を実現するための空間を効果的に配置



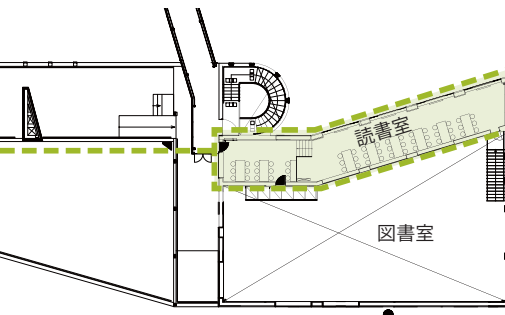
1 生徒の多様なニーズに対応できる蔵書を完備。昼休みや放課後は生徒が積極的に利用している。



2 職員室とは別に各学群ごとに設けられたステーションには教員が詰めており、いつでも生徒の相談を受けることができる。



4 2階図書室平面図。



5 3階図書室平面図。



3 読書室。図書室と直接行き来ができるが、雑音等が伝わらないよう隔てられている。落ち着いた雰囲気での自習ができる。

校長の視点

生徒の目的に応じて柔軟な対応ができる

設計者には、本校の目指す生徒像「夢の実現に向けて主体的に学ぶ生徒」のとおり一人ひとりの生徒が個性を伸ばせる空間を学校全体につくってほしいと依頼しました。その結果、校内のさまざまな箇所に生徒が進んで学ぶための空間が整備されました。

本校には選択科目が多数あり、大学や企業から講師を招いて講義を行うことも頻

繁に実施しているので、それに対応した教室を整えています。また生徒の自学のために、図書室や自習スペースはもちろん、生徒の動線のいたるところにテーブルやいすを配置しており、進学用の資料や教材を置くなどいつでも誰でも利用できるようにしています。そしてその生徒たちをフォローする教員の居場所にも気を配りより生徒に近い場所に待機できるスペースを用意しました。生徒自身も有効にこのような場所を使っており、自律性を高めています。ごく自然な形で生徒間

や生徒と教員のコミュニケーションが行われています。(写真1～3、6～10)

2. 学習・生活空間の質の維持・向上

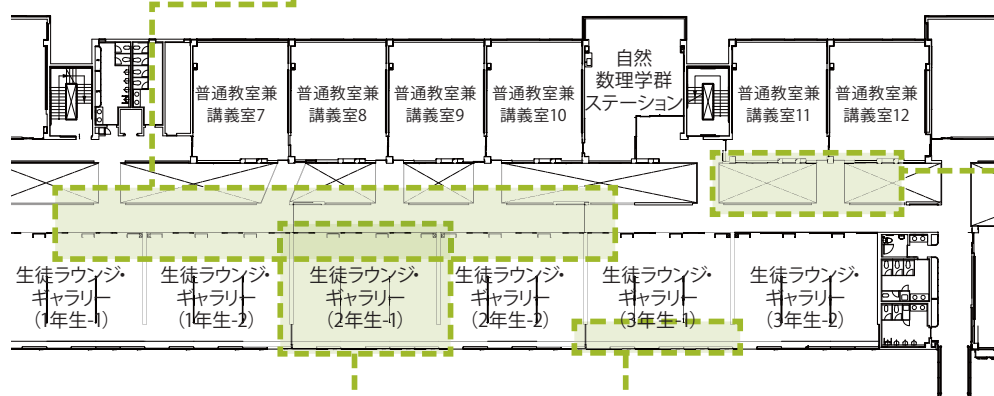
「講義室とラウンジとが適切な距離を保ちながら一体的に配置されている」



6 生徒や教員が往来し、各部分の出来事が自然に認識できるオープンなつくりになっている。



7 教室の前後のドアはラウンジの脇の通路につながっている。



8 3階平面図。



9 生徒ラウンジは、自習や着替え、昼食をとるなどいろいろな目的で利用されている。生徒の自発的な掲示場所もある。



10 ラウンジにつくられた中学校棟が望めるカウンター。採光豊かで明るい自習スペースとなっている。

教職員の視点

大小の教室それぞれの工夫が生きている

校内の施設で最も効率的に使われているのが大講義室です。生徒・保護者・教員・外部から招いた講師や地域の人々すべてに利用される空間であり、使われ方も多種にわたっています。200～250人規模の行事が行えるので、学年会や説明会、外部講師による講義にも使用しています。

一方、ホームルーム兼講義室や小講義

室はそれぞれ目的に応じた設計がされており、授業内容に対応しています。生徒はその部屋に入ることによって頭の切り替えができ、授業に集中できているようです。また、それぞれの教室が自然な動線につながっているため、授業間の移動もスムーズにできています。小講義室での設備面での配慮としては、採光の工夫をしています。

ホームルームは廊下側にも大きな窓が設けられていますが、小講義室は廊下側の窓はドアの一部のみとなっています。そこで室内に大きな窓を設置して光をたくさん入れることで閉塞感を取り払っています。これにより、小規模な空間にながらも開放的な気分で生徒は授業を受けることができています。(写真11、14、図15)

3. 効果的・効率的な施設整備

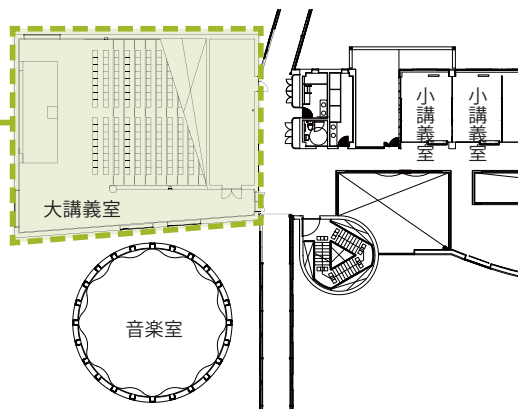
「履修人数の変化や様々な使用目的に対応できるフレキシブルな教室構成



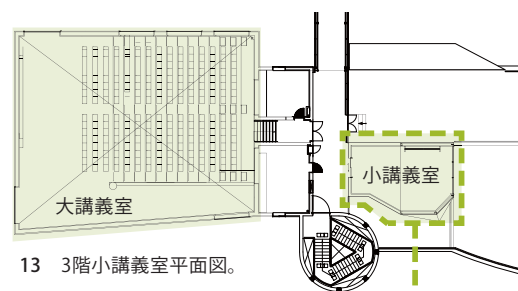
11 大講義室は、学年会やセンター試験前の説明会、大学からの講師による講義、コンサートなど幅広い目的で使用できる。



14 履修人数に応じた授業ができる小講義室。



12 2階大講義室平面図。



13 3階小講義室平面図。



15 小講義室はそれぞれ形が違い、授業内容に応じて使い分けられる。

〈設計者の視点〉

◎計画の具体化にあたっては「6つの学群・系列」、「中学校と高等学校」といった枠組みの、それぞれの機能的要求を満たすとともに、それらを相互に可視化すること、多様な人の集合に対応したスペースを用意することに留意しました。

実際の設計プロセスの中では、教育分野の専門家や従事している教員の方々のご意見を聞く場として「公開ミーティング」を2回実施しました。このミーティングでは将来的な地域

の人々の学校管理・運営への参加の可能性や学校施設の地域開放も見据えて広く告知し、どなたでも自由に参加いただける形式としました。

校舎内の主な動線は、アクティビティベルトと呼ばれる帯状の吹抜け空間で、これは中庭と連続しており、校内のどこにいても別の場所で起こっている活動が目に入ります。その中庭を介して中学校・高等学校のロビーが向かい合わせで配置されており、全校生徒の一体感が生まれるようになっていま

す。

また、小講義室群などによって多様な学習集団に対応しています。

(設計／原広司+アトリエ・ファイ建築研究所)